

経験や技能を活かして  
地域とつながれる新しいデイサービス

～その人らしく輝くためにできる支援～

---

地域密着型通所介護・共生型放課後等デイサービス  
WorkshopRNC 内田愛里

# 【目的】

---

- 高齢者や障がい者が、住み慣れた自宅や地域で「その人らしく」生きるためには、各個人の身体状態や認知機能状態、趣味嗜好に適した、個人に寄り添ったサービスの提供が必要。



- 本施設は、施設内で自分の役割を見つけ、経験や技能を活かし、社会と繋がれるデイサービスとして開始した。
- 活動を通して得られた利用者や家族の反応をもとに、今後のデイサービスの在り方について考察する。

# 【本施設の概要】

名称：WorkshopRNC

施設類型：地域密着型通所介護

共生型放課後等デイサービス

住所：東京都武蔵野市西久保2-6-1

定員：10名

開設日：2022年1月1日

スタッフの資格

- 生活相談員、介護職員も看護師資格を有す
- 機能訓練指導員は作業療法士
- 認知症ケア専門士を配置
- 保育士を配置
- 看護職員は訪問看護ステーションとのローテーション



# 【本施設の概要】

---

- 地域密着型通所介護を母体とした、子どもも通える共生型施設
- 対象は、要支援・要介護認定を受けた方と医療的ケア児、重症心身障害児、合理的な配慮が必要な児童など
- 活動内容は、「社会参加、役割の創出、栄養改善」をテーマにデイサービスに通う方と一緒に調理を行い、お弁当販売と昼食作り  
(お弁当販売で得られた収入は、合理的な配慮を必要とする子どもたちへの支援活動の費用に充てている)
- デイサービスに通う方が先生となり、「経験や技能を次世代に伝える」ためのWorkshopを開講し、書道や水彩画、手芸、お料理教室などを行っている。

# 【本施設の概要】

---

- 同じ場所で

「医療的ケア児の支援、多世代共生による広義の教育、放課後の居場所の提供」

をテーマに放課後等デイサービスで、医療的ケア児を含む対象児の受け入れを行い、大人も子供も世代を超えて、一緒に遊び、働くことで地域と繋がる場所の提供を行っている。

# 午前中の活動

---



# 午前中の活動

---



# 実際のお弁当

---





# 午後の活動

書道教室・絵画教室



# 午後の活動

## おやつ作り



# 午後の活動

- ・ 子どもの先生



# 午後の活動

子どもと大人の交流



# 季節のイベント

# 夏祭り



# 季節のイベント

# 夏祭り



# 【サービスの内容及び提供方法】

---

- 提供内容：WorkshopRNCを運営するメンバーの一員として、調理人、講師、先生などの役割を担えるように支援する。

（健康状態の観察、個別リハビリなどを含む）



利用者の心身機能及び活動の維持・向上、社会参加の促進を図るため、通所者の有する能力に応じて役割を決定しWorkshopRNCの運営に参加できるように支援する必要がある！

# 【具体的な取り組み方法】

---

## ①役割決定のための情報収集とアセスメント

- ・ 利用者の身体状態及び認知機能状態、病歴の正確な把握
- ・ 利用者の趣味や特技、好きなこと、現役時代の仕事や経験についての情報収集
- ・ 自宅での過ごし方やデイサービスを利用するに至った経過、本人を取り巻く状況、本人や家族の希望する施設での過ごし方についての把握



# 【具体的な取り組み方法】

---

## ②活動計画

- ・利用者が成功体験を持ち自己肯定感を高められるよう、成功への道筋を考え誘導する必要がある。

例) 「左手に麻痺があるけれど野菜の平らな面を下に置けば片手でも包丁で切ることが可能」

「認知症による実行機能障害があるが、作業を単純化し5回毎に『○○をしますよ』と記憶の強化を促せば実施可能」など

- ・利用者一人ひとりにとって有意義な時間が過ごせるよう、日々の活動内容や利用者ごとの1日のスケジュール・職員の配置を事前に計画。

# 【取り組み結果】

---

- 利用者の声

「今の自分も誰かのためになれていることが嬉しい」

「自分の特技を活かせる場があって嬉しい」

「子どもたちと関わるのが良い刺激になる」

- 第1回運営推進会議にて利用者家族より

「これまで家で鬱々とした日々を過ごしていた親が、子どもに書道を教えたことと楽しそうに今日の出来事を話してくれる」

「家族はついつい親の出来なくなったことのほうに目がいってしまいがちだが、Workshopでお世話になることでまだまだできることがあるんだと思わせてもらえる」

- 放課後デイサービス利用者の児童の保護者より

「人と接することが苦手な我が子が少しずつ他のお友達や大人の方と関わるができるようになっていて日々成長を感じている。」

# 【考察】

---

- 利用者の自立支援や生活意欲の向上、心身の機能維持の視点でのサービス提供を行うためには「正しく対象を理解した上で状態把握を行い、環境を整え、利用者が持つ力を引き出す支援」を行うことが重要。
- 利用者一人ひとりのニーズの変容に対応していくために、チームケアは不可欠。施設内でのスタッフ間協議や家族との情報共有のみならずケアマネジャーや他サービス、医療機関等とも適宜連携が必要。
- 通所介護に通われる方が施設の中で役割を持ち活動することで、次世代の子どもたちに「できる」ことを行い、子どもたちがそれを受け取るという事が社会貢献、社会参加になっている。

# 今後の課題

---

- 厚生労働省が推進する「地域共生社会」の実現に向けて共生型サービスが注目されるなか、都内初の共生型施設として運営を開始。実際運営する中で課題点も見えてきている。

例) 「スタッフが大人も子供も両方対応できる必要がある」  
「多様な年代の利用者が一つの空間で過ごす施設の方針にマッチしない方への対応が難しい」など

# 【考察】 今後目指す施設の在り方

